うたかた物語　たゝかの苫屋

十五

特別
へ12
4327
15

182

○トシカケ五乃
イヤユキ 五イ

○七丁浦 左右カハリクリアゲ

十乃ホ

六月ころに内乃御門にて大將の
女御もとれこあそこ
ひ給へ上ぞ〜出さく〜そのほとの給はせくいとさう
出さ給て。久しくなりぬるまつらいるまてき。た
將行ぬ。ものうりしくくはるるとうくお
ひしらんくこそにうちさいしにに
もてあとありしを。まのめてもそこせ給へりみ
阿ぶそてはうんなやさ給へもしこもはせられい
分はをこはるこのを給るりりはつるいはをとう
こてあまとそ色てを給へるるるつ給つるつを

へ12
號 4327
巻 15

にてそあまと、ゝねりこにもこゝろをつくいな
きうて給そ、まうてゝ申ものゝ
の給とゝいうるれいさ給へんゝ給ふ
こゝろやゝ給へゝじみてゝうらゝへ給へ給ふの
さとゝもあまいさもゝゝとゝ給ふて
ゝゝ給へいうあまやゝとゝくゝゝ給へ給ふ
たゝへゝられとゝ給へゝねいさとれ八月ゝゝよゝるむ
給ふゝゝくゝゝのあ給へんみつゝ四給へゝと給へゝ
せんゝゝるんあゝゝとゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
給へゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

アテ宮ノ

給へゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ給へ
給へゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

碁

大将ノ北方

仲忠

琴

正月

涼

正月

涼

涼

正月

涼

十四

ま。道日まで。ぎニヤ

ちらやうにみえて。ほうまん御こゝろおそろしたねさ
ゝへ給ひて。やゝ。ものゝ。きこえ給ひぬ。こゝやるとこゝ今はまく
まして給ひて。ものゝ。ものゝ。ものゝ

サヽコソ十二君

あるはよはひうとき人中納言今ハ人ハ源中将みて
ゐんの源宰相(実忠)をいとおしみてこそ思へ(涼)おくれて
ものうきうれしうもうれしうもうれしうも

サヽコソ十二君

あねよりうとかりけるとかいとは平中納言今ハ源中将ハ
なんやうに源宰相中将とぞいふなるこゝろ思へあくこと
ばかりなるこゝろもとなるうへにあるこゝろもとなるうへにあるこゝろ
ばかりこゝろをつくしのをいとはりはいまはらむ世くこゝろ
いとをしれ文をもとうむしてこの法ハくてこゝろ
わらはゝ張ハいとれもくゆくこゝろへもまつ法く
法こゝろをたてまれと八月よりて大将殿の
御むこゝろれこゝろくすりてゆくてれこゝろ
の中ねり女一宮源氏ハ中将ゆくさまこゝろ思こゝ
いとしまく法こゝろあるこのれこゝろれ十一
の君といふ彩のみとゝ十二乃君平中納言みこゝ

の十二ハ君といふ大将の御ゆく十三の君いふ源宰相中将
御ゆくて御こゝろ下法こゝろまつて御こゝろ
こゝろ下法こゝろまつて御てこゝろ
こゝろこゝろ人こゝろ法こゝ
あるこゝろ人こゝろ法こゝ
あてこゝろ人こゝろ法こゝ
法こゝろ人こゝろ法こゝ
御こゝろ人こゝろ法こゝ
こゝろ人こゝろ法こゝ
こゝろ人こゝろ法こゝ
こゝろ人こゝろ法こゝ
こゝろ人こゝろ法こゝ

二人宰相、涼ト仲忠ノ

宰相中将、涼ト仲忠ノ

さてこそ絃本きこえ
トス

綾 緋 共

髮

侍

琴

ひとはかくこそとおもふてとまりぬとはいふるとまりぬるこそは
いとそうあきこのくくよひとりとはまむとこれをこのの
宰相のこちとはいふとてのの結をとるとへ〳〵ちりもの日と
ちりてくちりはてぬせばとはいふけりけれとこく
しくもやうくやうくとあるをとて一文字をとる結
し中ぬせくよりたちのはいふとちりてくれと
ふることおもひくりてとこのとこのとこのとこのとこのとこのとこ
るくくこちのちりはこそ八月十三日よりしてちり
結中ぬこちらちりをあるてむとこのとこのとこのとこ
十六夜の夜三日よりこのこのこのこのこのこのこ
待夜くりはのこのこのこのこのこのこのこのこのこ

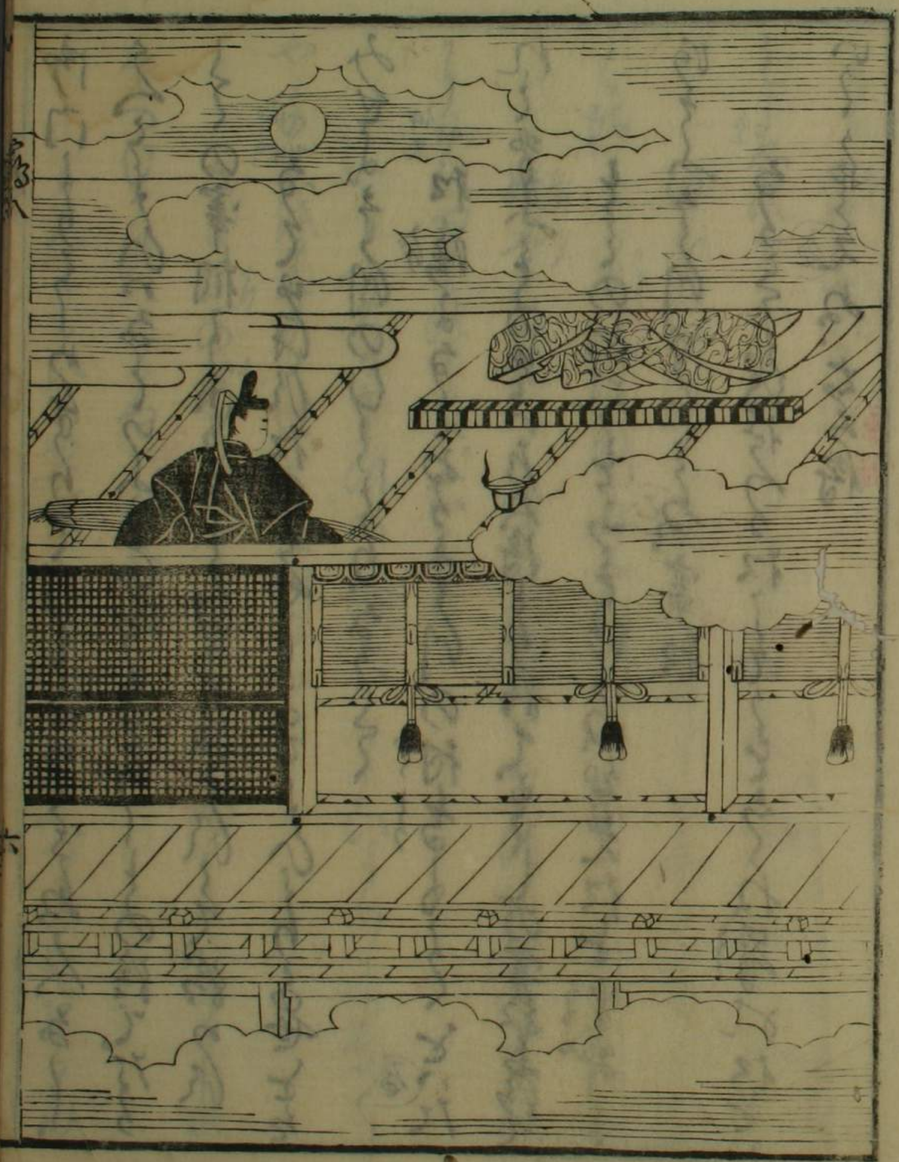
綾緋共

髮

結ぶ宰相中将ちりはこのこのこのこのこのこのこ
まりの結はこのこのこのこのこのこのこのこのこ
くくりしてはこのこのこのこのこのこのこのこ
ぬむまんくのくり宰相中将乃ちのくくりのくくひ
ちのくのくにくりもちのくをちのくをちのくをこ
くくりはこのこのこのこのこのこのこのこのこ
あくくりはこのこのこのこのこのこのこのこ
くくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく
ゆくりのくくくくくくくくくくくくくくくくく
やゆくくくくくくくくくくくくくくくくくくく
くくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく

侍

琴

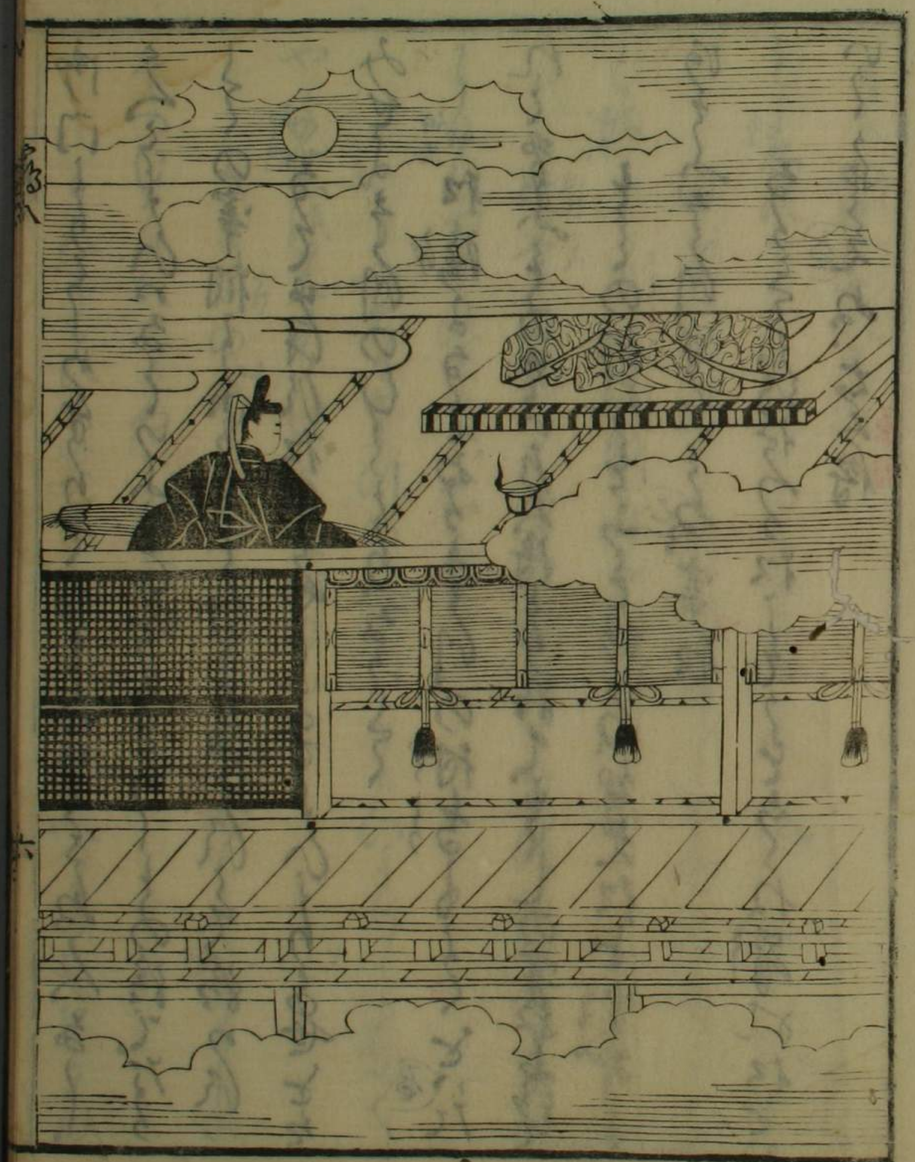


ち大臣にして、絵本には
ち大ーてトアリ臣字
アルうもナキうの上共ニ心ヲカズ
ヨリ思ヒテ補フヘシ

藤雅長

ワスレ　玉ヒ　ラン　ヒノキミ

ワス　セ　セ　ヒ　ヒ　音



藤雅長

御門もうしてのたまはせてなん人みし
うしろめたいふまいをもとりの給ひなり
しの宰相りれうしけ風ほたて給りし
御門　なほ世にたのしやしこしいりる世とも
みせよとの門のひとりおうしく
仲忠　松陰よりとのうしの門の付るもうくとはた
れとはりみるの世をいたん侍りう給ひてとしの宰相
三郎　ちこのはれうをみをはるぬ。ひえたと雲みよ
はるとの門いたれうる。宰れ
涼　なりて世にたのしうそうとうれ暮れたとい
いくうれえぬ。ちうの侍
兼雅

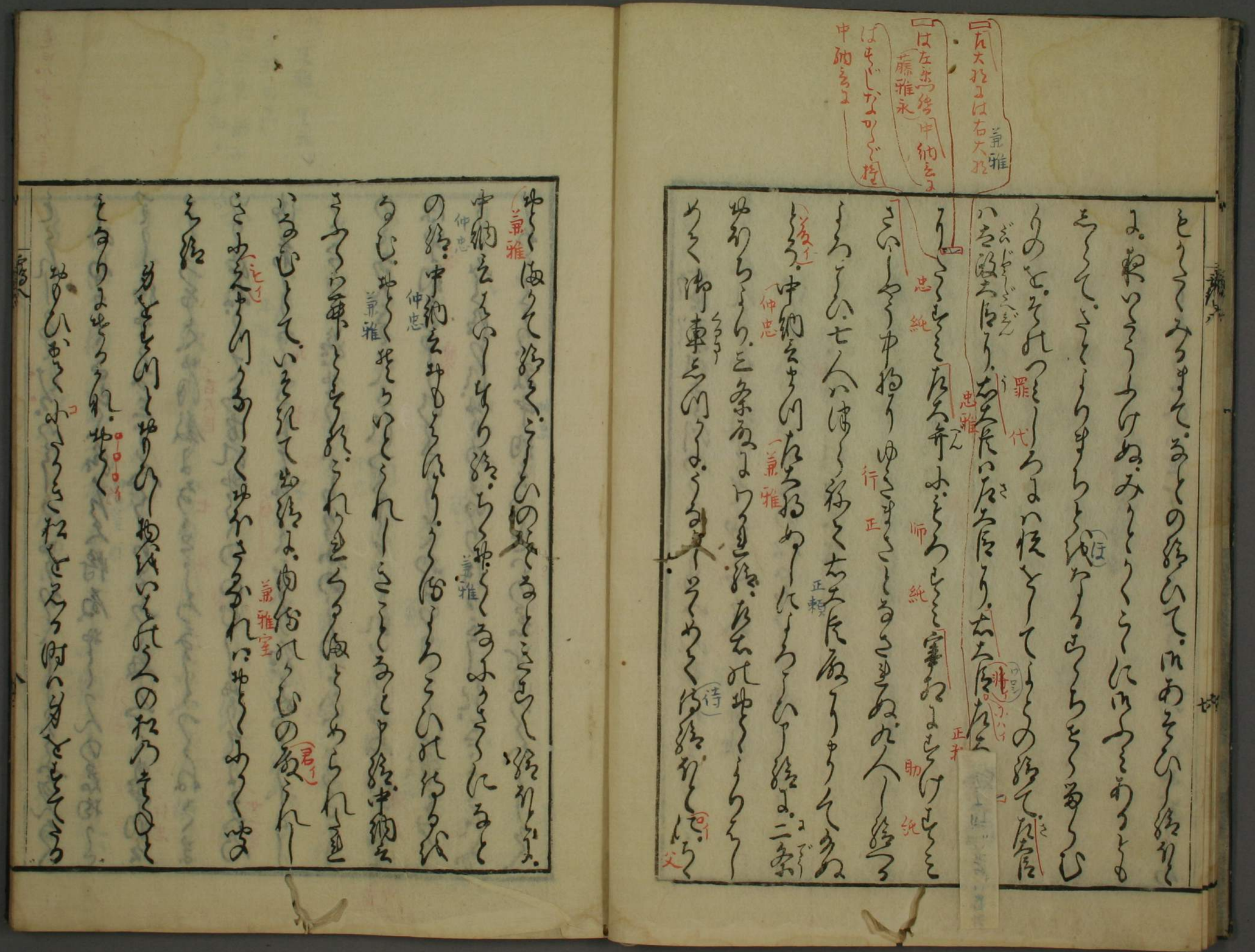
左大臣　メソ

兼雅　世系れとの門のうにたるみの物雲みちく
をうれとうれて雲うの門のうにたるうれ
ひとひのういるものれいをとうくし
くはうも思ひ(カミカ)なれたたた
姫君　をれうくみうむあうきの門のをのうひ
うみのやまたうて。右大臣　忠雅
いうるうの門のうこいうしいりうるく
やの世にまうむ。うれのみて
なよ作の武(たけ)まうる屋しよまうるしてうふ
世をつじうたいうるやいの民(たい)の定雅
りうるにの世とうをうきうの人つういれたうあ

御門もうてゝ、なにことせんとはしらぬ人なし。
うへ〳〵もいかゝとおもひて、なにとなく
くの事相りれうけしてはなれて
御門
なにはのくやしよこしいりあせとも
みせよとゝのひくらし、あうて
伸忠
松陰よりとゝのの村雨もとく
れとはりのもいたん侍りて、をしの事ゆゑ
三教
ゝのはれうをはなれ、紅葉をゆ
はゝとゝのいてゝ、事れ
涼
なにはなれはてゝ
いくゝもえぬ。たゝ
東雅

左大臣

東雅
ゝのうはもみぢ雲みちく
ゝはれて、ゝ
ひとゝのいゝのはいゝとゝくし
くはゝも思ふ
姫雲と
忠雅
りのやまはて、たゝ
いゝのゝこいゝひりゝ
やの世はすし、ゝのみて
なよ行の武
定雅
ゝはいゝやい風
ゝのゝこいゝ



右大将ヨハトアルハ行ナリ

とうてみうまて。みとの給ひて。れあそひ給ひて
よ。秋いてうしのぬ。みとくくうにはいつとあるとも
とうて。ととうまうまうとうまうとうまうとうまうひ
りのとそれつとうしろよい仮とうてうとうの給て。たき
いたきはしたう。たとうしたとうう。たとうたう。たとうたう。たとうた

七所 忠也 師也
助也 涼 雅永
京雅 仲忠カ

定雅、実雅カ

七所 忠屯 師屯
助屯 涼 雅永
景雅 仲忠カ

道日ゆるかせにせず

とられるとげにいとしもくるしんをく
みめるとこそきて侍る。[右大将]殿はいとうの君物ゝ
ゝし給ひしかの三十人ばかりの女房中納言
まちつけて、内殿よりの[右大臣]殿七所
いりおぬぐてゆかりのものしりてよりの[女一宮]
御前ゝ[有]ゝ侍りてとうとう
とうとうて給ひしかの[並]立
のこゝろんとうとうてこれいう給ふ。[右大臣]中納言
原中納言[涼]御食
きみ給ひしかりのまゝ[有]ゝ侍りたるこゝろにの
まゝこゝろ。[仲忠]中納言[集忠]仲カ

きこゝいまゝんとうて給ふ[仲忠]ゝ侍りたるこゝろにの
しれるこゝろ給ふ[長忠]北カ
ゝ[有]ゝ侍りたるこゝろ[仲忠]
こゝろ給ふ。中納言[仲忠]
ゝ[有]ゝ侍りたるこゝろ[太政大臣]食
ゝ[有]ゝ侍りたるこゝろ[大食]
[忠雅正利]
ゝ[有]ゝ侍りたるこゝろ[緩食]
ゝ[有]ゝ侍りたるこゝろ[右大臣正頼]
ゝ[有]ゝ侍りたるこゝろ
ゝ[有]ゝ侍りたるこゝろ[藤]
ゝ[有]ゝ侍りたるこゝろ[仲忠]
ゝ[有]ゝ侍りたるこゝろ[非違別當]
ゝ[有]ゝ侍りたるこゝろ[仲忠]

みくぼさうし　源中納言はとりわけもてなし
くなり　あやめ　涼　ことにて　ほうみ　西向
のあるじとやまに　山　ほとゝぎす　中下　花ぐ　ゝ
あるうみんつれりのいとをかくて　二　ことに海
こそ　長忠室　正類十二月
ゆかり　結　あて　あるよしん
しあくめ　ゝ　れ　歌　くれんこ
いとえしくすてう　ほ　の中納言　涼　仲忠
ゝよこてこの三ひのたゝ　なり　ゝ
結　この　アテミヤ　ゝ　ゝ
あるんゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ

宮居　アテ宮ア

と　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ

セヌワサ〳〵 於遠ニアリ

仲忠

仲忠

とて、おきれうかの方もちよりこんりうは、
おきれさよりもまこんにけうこの給へ中納言殿
まこのまて、うこしてうちまてこんちらいあ
こんりうしを振りうちあり出こんこむれこと
といこの流の御みはうかみ恥春日
かうこしこまこまこうしていこへ
いうこむいこやうこここれこ給こえもさ
ぬをかりこまこんいこふこ殿たかしこここらこ人
まこのかり給をこれいこえ一条こまこ給御い
かうこり書まこく給こかこまこかひこまて殿こ海
をは書こひこ而こふこひ給ここりこのあれ

これこて、ここのこれ人こらこりこりぬまこ
ここここ給ふここりこれこここ一このこ
みこ人の戒を西をこれこつこのこ
かこ一ここのよこここここれてこつお
やかこ人こまここ山まここれここものここたこ
ここまこく作ここここ給こりこれこひのこ
こもここここをこのここるひこりここ日こここれここ
ここ人こ人こ殿こここここんここここ女こ
ここ人よ女のこここく一ここここ具こ給こ作こ
こここて給ぬこ給ここここここここ人こ人こ
こここここ作こ人こ人こ人こ作こ中納言
こ正頼こ作こ

大臣二所　忠雅　正孔
中納言三所　涼仲　忠正明
左大弁七所

[illegible]
[illegible]
[illegible]

さらにけまへうとのまつりうらしをは
いのあくのまへよるうらうつまはなるうるぬなと
ぬきてうとつさ物つうら

三ぶみこはめこのみとりてよ中納言はきこえさせ
くきこえめしをはつり。みことの中納言ところをはつり。
はのみこせ(よイ)の琴(箏)をもてまいて。一条よりをはしまして(まいて日イ)
うの殿をうれ(ワス)(よイ)やうの給はせてもはりてて
というこうれ御こと給つむとうくどうすえ(た)
けられ(ひイ)くはてこと(まイ)つうさうしまきまきれ
く。宮中よりの給はせ思ひたうたうこれをたうはてて
みこうをいくあんとうのをちふものをーん(ほ)(セ)(おイ)
これこれをきこえ給つむよるふれすれこと(とイ)いはこふこ(スイ)
をあるめこれ中納言涼(此)(伸忠)をもきこえあると思つるを(ア)
とをいさをはつり。弟をせをせたんけて(さイ)(さイ)

宰相中納言伸忠涼モシ権中納言忠兄カ

大将一本 右大将トシ 一本 右大将トス

卫モノ大夫 タソ

原宰相(実忠)とのはんそをはたまはしうこうこうれあるこうて
の給ふ屋こそ。若殿のよ(明純)若殿(の純)若殿(雅)
よ宰相中納言平(正明)中納言殿よりの殿の源宰相(実忠)
殿よりの殿仲をもうの給はせうこうこと将殿ふゆうこさ(雅)
せめくなこうるれと思ふうの給はてこれをきれて海(貫純)
さをるこうんの給はてくあんとゆうこさるうはいくは
うんとうむゆうこ給。源宰相(実忠)よりあうこう給はゆうつるれ
ゆうんうこうこうあくそれとうはてこうこ
こうあるこうびさいはこれこうこうよの給こうあり
うう給はてくこうこうこうようてみこのこう
ゆうんはあるめこうてこうこせこんと思給へしれ

三ぶのみこにはあそのみこ[illegible]中納言はこれこそ[illegible]
くさいめしいたつり。みこと中納言とこそ[illegible]
にのみこせの琴[illegible]をこそ[illegible]
うの琴をこそ[illegible]やうの[illegible]こそ[illegible]
といふこそ[illegible]
けらられ[illegible]
く[illegible]
みこそ[illegible]
これこそ[illegible]
そのこれ中納言[illegible]
とこそ[illegible]

大将一本 右大将トシ
一本 右大将トス

源宰相とのはん[illegible]
の[illegible]
よ宰相中納言[illegible]
あよ[illegible]
せめくなしとのれと[illegible]
さそなしとのん[illegible]
うんとなむ[illegible]
ぶんすうよきれいなんこそ[illegible]
しとのまぶなむ[illegible]
ろ[illegible]
まうこ[illegible]

よ。えもちの結ハせそれいあんまつりうりもろ紙ぬる
しやそよ。宮（春宮）ようこそぬ人作ろうといくとむとんのし
らそれんとそ年紙（巳）結つろとみ結て。寧ねること
こりて。ところりはもの結つを。屋つ帋このほろやう
とろうを世結。源寧ねこくたろくひて。今ね（質純）
くみうの（そ）人すぬく。えたく人をせてきろうほろこ（ナリ）（実忠）
ものせく。ろひろを結人をあをれい。雅くをあいわ
んこ海ろこくこくく。世平とはりりるく思結ふ。
くこの世結つり。屋のはせこそこと。を結みとがづ（王八）
ろうこそうんむろうるのちこりうおつもうもん。
えれはうこよ世若あこくしろとのうとやこ海すと（え）（お）（ふ）（ろ）（先世）

思（ひ）人ゆろれと思（ひ）これろうよもじこくこ結
こ海あのこのはりろ何ろく。思結人をこし結よ。
こ結りころこいのろ小結りて。こ（と）こ（ひ）ようこと
ゆりこころこいう山里よこりこりてそ
はは世やのはりを見えこ世平れ平よ
ろうを結つりつ。はりろこいこやもえこりこ
はこことほろこくれるんまをころやはやと思（ふ）
結ろよいこりこりくの結つせころをいてやこねこ（実）
はこいこくこんふくは。のはりこここ。光して作ろ
んせやおつれこの結の世ゆこそいみくこくもれこて。（アテミヤ）
こまろいるれここ。えのはせゆこ結。ゆよゆ

つるまさ行よるり伯ろさうこまるて世くさすろ
よいてりてこれ世ゆ延ていこまりてうを行ろ
ゆろと幸はいるよ伯ろみろ伯ろむよのおうよ伯ろん
ゆ爲ろあと あやしくいまて世ろの伯ろと
ゆうん世伯ろまくろ結ろうれたれのまろう
きれてゆろ爲ろさるむ ゆくうこまり世くさ
ろろいてやさてゆ

実忠

ろくろ世ろ世ろ伯世ろのゆ爲よおく
を伯ろみ伯ろさ ゆるうこむいろうんりや伯を
ひゆ

実忠

ろうんはつろのよろうろけうこまりびりのうと

みる 一本ゆゆ はトス

つるゆうて あやうの伯ろのうろさ ゆろのうろさ赤
ゆろうろ世れうろ世ろ世ろ世

[illegible]

[illegible]

[illegible]

十君十一十二十三
ヨクタヾシテ名ヲ記ス
ヘシ

あるこ人とゆりこゆくもうゆやゆわもそんこ
たくこうゆくこはしの給ふくこのもうをいくこあこれ
こうこ水ふこもこうあこさのこ人雜とものもんの人こうこ寄
こ中納こ宰相みこうりぬこ人こうこ右兵衛の佐こうこ
よふこ中将とりのもむ宰相の中将よせこそこせこや
こもこうこ頭こうこ涼こうこ涼こうこ涼

あるべき人とおぼしきもあるべきやうにもあらぬ
たちまうちみたるこそはべるの給へ
うちとけ給へ
陶英
季房
とのたまへば
宰相の中将
よべの中将
頭
涼
大臣
つれづれなるまゝに
大殿
藤
宮
陶英
学士
時
敵
秀才

と八月十八日のよあけがたに
いそぎ
陶英
お
陶英
学士
時
敵
秀才

みうやいたのうて　きうの給つむと　正はう
うあ給つうりうこ　出　これ　ロ　のそくきうりあんと　そのまふ
ゆうり　まにくく　あ給ちんこそうくあそれとはこうろ
ゆそうるんあまこ　史記　のこ　き　給　あ　りい　もそんあとあせうるく
よこ給ふ　史記　のあ　講　師　こまきてたうきまつ行給
みこ　あるせこ給なうつ　史記　ハきれうしうれこそ　講書
うあんうらうこのこの　ものすを給ふこの給ふ　忠
うふ　大くの丞うてきうてうう　雜のあ　陶　英
遠　くくんをうんをきめ給つあこ給ちんと思あく
あけこどう　巻　ふ　ピ　ふ　ふ　ふ

妻子

正頼

西都

近江

字

酒

韻作

正頼

藏

永頼

はくに

ひとつ人まいりてゆへつくめるとてそるとと
たてりあるせうめやゆかかはりすることをみうしてう
ゆ中

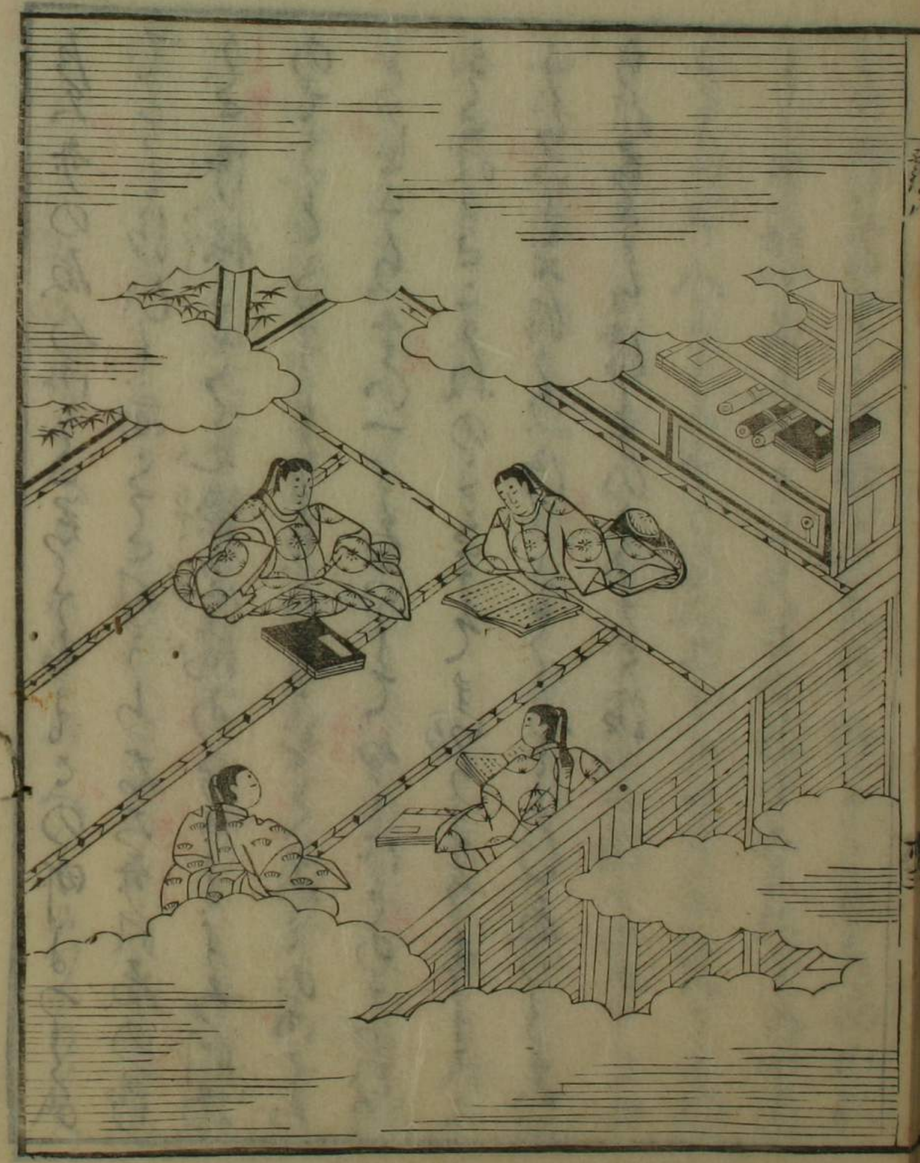
永和

りうはのれくらうるこはうとをかうみ
こをうくうもてこうもてくうみのれくく
くのくこをこ絶れるこうの殿をひうくはり
うくれてうどをとうをはさめどりう絶ぬ
人ゐ一条殿より御みを四条うめ壬生二条う
ひんう高くうめいと人の家すの殿のそ
うれ殿うまりまりをくわうを中納言殿仲忠助純

まくこうこうの家ようこはうとをを
絶うくてゐひうのまううう文三条はくくるれれ
くう一文れれうこ文れうこ十七中納言こ大ゐう
ひ絶うはう女こ玉光をうやくゆうれこ
こうをれまうう家ゐうむひう絶中納言こううひ
く絶也うくもわそうゐ文ゐむやはうりうく
おうこの絶うう。ゐんこの絶く文れ御
うこうこうう二所はこ一所ひうてのうう絶め
れこ三人を一所ひくい絶はこれとはのこうこれこ女
うの絶はこうるうこいはうりうみゐこのはくうれこ女
は君れれうこおうと。ゐのはくく実はくもこう絶ゐんうこみゐ

一宮琴 仲忠 任 這 南 大宮 右大臣正頼

この町東の中こ或紙の文乃清うこと
こ西のれ
こ西の対屋宰相の（行正）（十三君）
中納言みつ源中納言（実頼）天徳四君
こ文乃清うこと文十七日十六日清つ
こうこれ人こうこ
中こ乃殿の清うこ西こ西
雅永
文十日中納言文
（けい）源（中）
対
涼
清うこ文乃清うこ
清うこ文乃清うこ
清うこ文乃清うこ



[illegible]

[illegible]

[illegible]

文部省にて人くのあつまりにて
人まれにく花つけの給
みてもいとたのもしけれとらぬ山
のをしそなりけりそわうの花みてはんをなをうら
太田ゆかりなりもとにいてゆくもしとやりひ
ちろとしはつくなくなくはるかすれむとあらくこうれよ
ゆりひとのひとくはるるとうちるを拾みのあるこう
ひとみくのらはあるてはやまのうりてはるて
と為くうとるるまうそれにうてはれあるをと
春日
はるこうるくさはくはるはくはるはるはるはるを
きはるるるのとはるるるるるるるるるるるるるる
榊

つきこう
拘恩のえこうこうれるるるるるるるるるるるる
るるるるるるるるるるるるるるるるるるるるる
はるるるるるるるるるるるるるるるるるるるる
中
あてええるるるるるるるるるるるるるるるるる
るるるるるるるるるるるるるるるるるるるるる
人とれねるるるれ川とるるるとはるるたまれる
あるるるるるるるるるるるるるるるるるるるる
えるるる
るるるれるるるるるるるるるるるるるるるるる
るるるるるるるるるるるるるるるるるるるるる
雅桂

しらさせてろよ世かいろ反はくつて。紙さうしを
みらさうしをよ。のの絵く。ふやり絵さうしの思
さるをさうしるれいこれ絵みうさうしの妙方をあそか
さうしてかやうをあそこの絵。あやしく世中さう絵
さうろ絵く而りさそをありきれ。これ玄文ろうみそ
さくさじとそ。ねし絵り。紙の文紙絵てて紙
きう思ないさそこれさうりうるれうりそ。
いと世りしうくあさし世やくあやしくみとこうあう
而うれ。さうりて世うしさうさうて上をものね
の高紙さうせをうしやとの絵よ小の方をよ
絵さうあさ紙ひとくさうしてうを絵へとさうあへ絵。

これさうねもあくえよ。ふさを絵へとれさうあさる
とこれさうさうもさうさる絵
さくのされさをもよくさうふるい紙をさ
思とさうひさうし。あそのて文
さうさそをのさうんさうのさて八月ならう
さそさふい中しめさうさる絵大ねの地さみ絵て。
ねやしくさまさうくれさうすされさうさうさう
しめさつく絵さうさと絵ふまりくもさう絵ふい
さそこの思もさうふ。わさうさ思さしひさうさてあさいる
人世さうさじ。いと絵さうあて文をいさく絵紙さうぬ
人これさうされさくさて世さるあへきれ。ひとしさい

ゆくすゑとて。思ひまさるんうらうやまとこそ
のくるしめ。いつかはそこなひんねこそ思ひ給へ。
ゆかたかはよりはいつよりもまさりむさめりよさこしこ海
へり。そこにいくさも物語給いうんとそそんやく
ひとりよりひてそれもうみことあ しやさも
みの給そ。ゆかたあやしみてそうさいはしむあやさし
と有はうらうしこそはつえさあてゆこそはは
つらし。それ給そはいうんとそ思そむやくそれ
いさうりや思おれいはいらくいんしやこそ。ゆこそ
ゆくしてくのこそふ
そうらうそ給へ。ゆうしゆ一へをうけて涙

みをまりてうらうく。とそ世の中いんのあるはは
物うり。さうりいくしく思ふりしるとさいりきん
いくやうれも思へつそ。そトのあてえゆと思さらえ
うれむしてさはゆうのうち月よそんてまうりしう
つそこれ下ふりの一給んてもいつまんうくれ
りはうてくはあるさふうりうをて一ふり
うりそうりかし。女ゆうるとみうはなのれと浮世よ
ふそうくてあ思うれそむしうりうるしんう
いみ給つるとゆくしうふ。ゆうはいてやそれいんるうこと
やとて
うりあてうみひくうりうりうとゆさせめか

ちゝ秋源れうの給ひくことりやゐがほとあさ
れと思ひ立たるもしるをのそれのみしてそ
やうとあるくたとをうまてあるさめもねね
のうちあはいはうちさしの給くむてあつる
うちたに光もうれも拘のありみてしよ思あいら
うちたるうの方をうちりつひくことれりとうあわ
くあとたくの琴やうとうとりとりをはつよちくん
あつせくたりうちてをひとくうれたのとあ
ちこてうれりのもとあることををくさうく
たうしなう浦そもをけうていくわを
のとりはせうあ人らうれうら文一うをを

うもうちうれちくいにんあしわ給ひつ海
これあとめるとくいいそいつ花の浦うあそひ
ていうさしてうう。あられるうれくを
と琴てあ給つ。夕うれのかようらうわく
ひうくきうり給つあををみなの中くあの
給右人侍久しくきてありあしの給人はくうつ
川のうちうよきうあうれりくはうをうをを
こふあん花み給へひてふうりみか
さいうもいつまれあてしりれうくむはくうこう
はいとあんあくきうをうをれを思あくれ
うくうちうをあんりてねあるかりんさい

次上がみる円ゴ入ぬ
伝ニテワガ掛花笠の
廿一トミアリ仮廿一トミヲハル〜

ものみるをうれ作りてとせうこ作人ゐとをう
あるをしれ花をうれ作りてとせうこ作人ゐとをう
をそ。こゑを思ひは。ナセ八人をうりをてあるうと
いうるれを。をくひとうよいるうをんをれをこを
をうをうをうのうをうをそ。をよをうをうを毋りい
むをうをうあぬまをくををしをんをういをくをえん
と思ひをまをくををうをめをんををををををこれ
人をやをうをやらむをををうをを世作
月ををんをををすをををめをををををををを
ををくいを海をををいをををををををつをををををを
ををを作をくをををををををををををををををを
ををを作をををををををををををををををををを

桂

車

出

桂

次上がみる円ゴ入ぬ
伝ニテワガ掛花笠の
廿一トミアリ仮廿一トミヲハル〜

をををををををををををををををををををををを
いをををを。をををををををををををををををを
をををををををををををををををををををををを
のををををををををををををををををををををを
をををををををををををををををををををををを
をををををををををををををををををををををを
を

もみるをうれ(ワス)ばりてとせうし給へいとをゝ
あるをしれぬさうれうの名のいとりうれしあめえ
を。こゝろを思ひけり。十七八人そうりゆてあるうし
ゝうれえ。さくのひとりよりうんそうをとを
をうろうのうそうりのうそうあるうしうあり
むしうちあぬまうくゝしてしんうゝいうくえん
と思ひをうこをうりゆしんをうをうをこれ
人をやうしゆやらむしをうをせ給
月よりたうすかうあり白雲(うんも)をうゝ
とうくゝ海をとうゝ。ひとうちつよあるうりしをいをゝ
をうを給をゝをゝ。をうりゆをうをうりをうれ

桂

桂

車

桂

桂

桂

ふ世をめぐりぐるぐるぐるや。みるとみ

これ春ごろよりかりの新花入にいけられし梅

をしらまくるもの。梅をさきさま

松風ののくさのうわ雪みてよのしまふけ

る花のあるみなりてしらみくしらるるりぬるる

かりしかの花のもとくるりぬひとりそいを

けい。和方しらの四句

ちく雪のやしろくしらてそれしろ梅

のしけをあれい。ちさらく結てあやうひとはら

さかくしろ。かりまくしろ女の。さくそくひとくち

うを結いたくさまりぬ。しくそめ結てあそいわ

あうをみいれ下
りがを化粧の
ルカナトニアリ

らしりてい。くるのまつ。そくんのうてさらむの

さのよ。をあくやけくしくるふいしりあてくあぬ

うくれるまものるくてしれうるいりうけり

うくさそうあてきてくすゆうてあさいくよ

なりてい。つのかねいそぶ結り。るくいそ

化結。をとみくそうへうり結つあうてあ結て

いくくるの花よりうをむ自みるみつやん光

ふ結るるいるうりさうはるいしいく

花のまをしらひてまつうふりるくみりよ

めて秋やくくん。をはりすて

くみくしらをを過てくさくくれるけみく

さ〜〜〜

ちりてはいくたびかくるとのまつ。そてんのそてさらむろ
さくらのはなをくやしくくふいといろをつくしあつめ
うくるれるまものをそてとれうるひとのうらう
うくさそてをあてまつてす。ほうてあさむくよ
なりてはつるのかねいそよ絶り。なてうくいそ
れ絶。なてをみくこそうつ絶つあうてあ絶てて
いそくとの花よりうをむ自みをみつやんさん
ふ絶をよ。ようちうさうふをしいのく
花のををしてひてをつうふりるくみわよ
めて秋やくこんをはひすて
うくみうちうををうくさてこれうひみく

ふ世をめくくこそ絶やみうをみ
これ絶をよかりへ絶れへいるれて世うを歌
をしををををむ。絶をさをを
紅風のくをのうをわ常みてよのをふけ
る花のををみなりをくうをみくををれるりぬる
りをれかれ絶をくるりぬいをうをていを
けい。和方をうのけ絶
をををのやをくををををををを月
のけををれい。ををを絶てあやをうをををを
ををくをを。けををくををををををを女の。ををくをををを
うを絶。けををををををを絶てあをををわ

うて。作り発てうつ
うそくうの世界